

## 分析センター20周年を迎えて

学 長 兵 藤 釗

分析センターは本年4月設立20周年を迎えた。人間でいえば成人に達したということで、心からお祝い申し上げる。

分析センターの沿革を振り返ると、1972年、自然科学系学部がまだ理工学部一つであった頃、一学科で揃えることはむずかしい高価な分析機器を関連学科で共同利用するシステムをつくることのできないかということで、理工学部内に共通機器運営委員会を立ち上げたことに端を発するとうかがっている。その運用成果が認められて1980年4月、この種の学内共同利用施設としては全国で3番目にあたる分析センターが設立された。埼玉大学の分析センターは、同種の施設としては草分け的存在をなしているわけで、ここまでに至る関係の諸先生方の先覚的な努力に敬意を表したい。

当初わずかな機種で出発した分析センターも現在では30機種を越える分析機器を備えており、1987年10月からは利用者の便宜をはかるために機器予約システムを稼働させ、学内共同利用施設としての実を上げていていると聞く。その背後には、効率よく利用できるように常時機器を整備するとか、あるいは機器利用のノウハウを伝授する講習会を開催するなど、関係教職員の並々ならぬご苦勞があったわけで、感謝の意を表したい。

さらに、これまで分析センターは年一回の一般公開や、高校の理科教諭・公共機関の技術者などを対象としたサマーセミナーの開催など、地域社会に対しても門戸を開いてきた。今年から地域共同研究センターを軸とした産学交流協議会が発足したこともあり、この方面で分析センターが一層大きな役割を果たすことを期待したい。

成人に達した分析センターがさらに育っていくためには、新しい装置の導入や古くなった機種の更新、あるいは施設・設備の維持運営にあたる人手の問題など、解決を要することが山積している。いずれも容易な問題ではないが、分析センターの一層の飛躍を期すために関係者の皆様のご協力をお願いしたい。